



授業の一環として学生がイベントを見学

イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：401千円

UDWeek (ユニバーサルデザインウィーク) ～人の可能性を活かすデザインを考える～

目的・趣旨

UD先進県として培ってきたナレッジやネットワークを基に、本学のUDに関する教育や研究事例、学生のフレッシュな視点を紹介し、体験や様々な領域の参加者との交流を通して「これからの生きるUD」を共に考える。

日時・場所

平成30年11月12日から平成30年11月16日
静岡文化芸術大学内（自由創造工房、大講義室、他構内）

体制

(実施代表者) デザイン学部 デザイン学科 准教授 小浜 朋子
(実施分担者) デザイン学部 デザイン学科 教授 谷川 憲司

共催・後援等

(後援) 静岡県、静岡市、浜松市

内容

SUACで培ってきたUD関係の学びのコンテンツ、学生提案、学術研究、共同研究・開発、地域活性化活動内容を、5日間にわたり自由創造工房に展示。生活のデザイン、食のデザイン、音楽のデザイン、スポーツのデザイン、移動のデザイン、絵本・グラフィックデザインなど、テーマごとのブースで学生を含む説明員が説明。参加資料や体験とあわせて、来場者のUDの理解を深める。UDフード（嚥下食）の講演と試食、サウンドテーブルテニスとボッチャの実演、UD楽器の演奏などスペシャルイベントも実施。参加者が共に「これからは生きるUD」を考える機会とする。



スポーツ・音楽・食をテーマにスペシャルイベントを実施



イベントポスター

結果・成果

来場者総数は約350名(学内学生：約170名、学外学生：約50名、学内の教職員：約30名、UD関係者：約50名、その他：約50名)。想定よりやや少なかったが、企業、行政、教育など様々な分野のUD関係者、UDに興味・関心をおもちの地域の方々と共に、UDの領域の広さや深さに改めて気づくことができ、細やかなコミュニケーションを通して新たなネットワークが広がった。また、授業や、学内見学のコースにイベントの見学を取り入れたことで若い世代のUDの理解が深められ、学生の意見により企業展示のロボットを使った音楽アプリの商品化が加速するなど、具体的な手応えも得られた。体験を通じたSUACの活動内容の共有、JDP（自助具プロジェクト）の学生の参加による交流の活性化など、大学が主体となって「今後のUDの方向性」を検討する場としては総じて好評であったが、イベント開催の効率性には問題があった。今後は、学生や教員、企業の方が参加しやすい開催日時を設定し、準備段階から地域の小学生や高齢者など周りを巻き込みつつ企画し、「時代とともに進化するUDを体感し理解を深める場」を企業・NPO・行政・地域の方々と共に考え、展開していきたい。



大学におけるUD推進の役割



音楽アプリの体験



サウンドテーブルテニスの実演